

# 地域おこし協力隊通信

— 第19回 —

## 花と夏のまちの暮らし

地域おこし協力隊 小野寺大樹

この夏は、紅花摘みや各地区のお祭りに企画から参加させてもらいながら一緒に取り組み、充実した日々を過ごすことができました。

さて、私が移住したきっかけの一つの「紅花」。今年は、お借りした畑で紅花を栽培し、自分の畑ではもちろん、各地の紅花畑へ花摘みの手伝いに飛んで行きました。そして一番取り組んでみたかった紅餅の作り方を教わり、自分でも紅餅を作ってみました。江戸時代を通じて日本各地で行われていた紅花の産業、白鷹町の紅をつくる工程に触れたことは、私にとっては単に古いのではなく、とても新し

い産業（ナリワイ）に見えて、とてもワクワクしながら取り組みました。良質な紅餅や紅花の新たな可能性を引き出すために、引き続き勉強していきたいと思えます。

また、8月9日に行われた鷹山コミセン主催の子ども放課後事業「わいわい元気っ子」にて、紅花の花弁を漉き込んだ深山和紙を用いたうちわづくりを企画しました。うちわを作る前に、紅花は「深山和紙」の油紙に包まれて最上川を下り、北前船で京や江戸に運ばれたことを話し、紅花の歴史についても触れました。参加してくれた子どもたちには、町の産業について少しでも興味を持ってもらい、さらにそれが身近に感じてもらえたら良いなと思っています。



子どもたちと一緒に作った世界に一枚だけのオリジナルうちわ

## 町報川柳 — 知 —

記念樹の会津身不知枝たわわ  
 昼にせみ夜にはほたる夏を知る  
 知っている君の住んでる鮎の里  
 誰よりも知識低いが口軽い  
 未知の世界限らない希望試験越え  
 罵声にも頬笑み返す術を知る  
 記録ない記憶もないが神は知る  
 知恵の輪で脳波にみだれ口への字  
 知恵ついて家中探検孫の跡  
 三人で知恵を出し合うミニクイズ  
 知恵熱を出してた孫もヒゲ面に  
 知り合いが家に来いよとむねをはる  
 年重ね知らなき事の多かりし  
 戦争を知らぬ政治屋の口車  
 知識より心の会話を胸打たれ  
 口伝え先人達の知恵袋  
 他人でも麻央と聡太に知と涙  
 おもんじゅ様知恵をもらいありがとう  
 知らぬ地にマップたよりに一人旅  
 知らぬ間に歳をとったと笑ふ仲  
 知恵袋老に叶わぬ事ばかり  
 しまったかぶりカタカナ言葉並べたい  
 ガッテンの知恵をもらってストレッツチ  
 七十才知力体力まだ生かす  
 平成になって知名度更に上げ  
 天知る地知る政権民は知る  
 五年ぶり知人に合えてなつかしい  
 苦勞人知って得する思いやり  
 知恵かざし屁理屈こねて嫌われる  
 老化とはあちこちに痛むものとする  
 成せば成る知人と話し手をたたく  
 狙っていると早くトンボに知らせなけりゃ

坂戸市 安達 功  
 長井市 安部ありな  
 高岡 安部 健一  
 山口 石川與次衛門  
 荒砥甲 五十公野かをる  
 荒砥乙 五十公野春己  
 鮎貝 植木 英夫  
 浅立 梅津 太一  
 浅立 梅津美千子  
 滝野 海老名きち  
 世田谷 遠藤 八重  
 横須賀 大滝健次郎  
 荒砥乙 木口 とよ  
 菖蒲 小関 弘  
 鮎貝 佐藤 幸子  
 鮎貝 神保 玲子  
 荒砥甲 鈴木美貴子  
 十王 平 恒人  
 高玉 高橋 朝子  
 荒砥乙 土谷 灯一  
 箕和田 土屋 平敏  
 箕和田 土屋 敏子  
 広野 新野智耶子  
 高玉 橋本つね子  
 荒砥乙 保科 努  
 町田市 保高 悦子  
 十王 松田 久一  
 十王 松野いせ子  
 十王 守谷 勝助  
 十王 守谷 三郎  
 鮎貝 横沢 直太  
 山口 渡部喜美子

次回「野」八月二十五日まで。 「記」九月二十五日まで。  
 白鷹町大字荒砥甲八三三番地 白鷹町役場企画政策課情報係 宛